

平成 22 年 5 月 27 日現在

研究種目：基盤研究 (A)  
 研究期間：2007～2009  
 課題番号：19252004  
 研究課題名 (和文) ボトム・アップの政治改革—社会変動期の中国における政治参加の総合的研究  
 研究課題名 (英文) Bottom-up Political Reform: Comprehensive Study of Political Participation in China's Social Transformation  
 研究代表者  
 高原 明生 (TAKAHARA AKIO)  
 東京大学・大学院法学政治学研究科・教授  
 研究者番号：80240993

## 研究成果の概要 (和文)：

市場化と経済発展によって、中国では草の根レベルにおける政治活動が様々な領域で活発化している。しかし、マス・メディアの動向や人民代表大会、住宅管理組合や農村の動向などを実証研究した結果、政治活動の活発化は必ずしも「ボトム・アップ」の改革につながる様相を呈していないことがわかった。その主な原因は党の統制という制限があることであり、改革の行方は党の側が草の根の動態に如何に対応するかにかかっている。

## 研究成果の概要 (英文)：

We have found that political activity at the grassroots level in China has been activated in various areas due to marketisation and economic development. However, empirical research into developments in the activities of the mass media, people's congresses, flat owners' associations, peasants, etc., also revealed that signs of what could be called "bottom-up" reforms are yet to emerge. A major cause of this is the control of the Party that sets a limit to these activities. The future reform therefore depends on how the Party will deal with the developing dynamics at the grassroots level.

## 交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2007 年度	8,300,000	2,490,000	10,790,000
2008 年度	9,800,000	2,940,000	12,740,000
2009 年度	8,800,000	2,640,000	11,440,000
年度			
年度			
総計	26,900,000	8,070,000	34,970,000

## 研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：政治学・政治学

キーワード：政治学、現代中国研究、地域研究

## 1. 研究開始当初の背景

中国政治は大きな転換期を迎えている。中国社会の利害構造は市場メカニズムの導入によって複雑化し、貧富の格差が拡大してきた。同時

に国民の権利意識はグローバル化や情報化を背景として向上し、民主主義的な価値観と公正性や公平性への要求は徐々に中国社会に広まりつつある。その結果、公正性・公平性と効率性

を両立させる利益配分のシステムや利害調整のメカニズムを如何に確立するかという、政治参加にかかわる政治制度の変革が中国政治の重要課題として浮上してきた。

## 2. 研究の目的

様々な領域の草の根レベルにおいて、人々の参加意識の向上および参加拡大の実態を明らかにする。如何なる政治活動の活性化が認められるのかについて実証的に検討し、社会の政治的動態の実状を把握することに努める。さらに、観察された政治参加の分類を行う。そして、政治参加の拡大が認められたならば、そのことが中国政治にいかなるインパクトをもたらしているのか、なかんずく政治制度の改革をもたらしているのか、あるいはそれを促進する可能性を示しているのか否かについて検証する。そして中国の経験から政治参加論の発展に寄与する。

## 3. 研究の方法

中国における政治参加に関する分析枠組みの確立を目指して、理論的な検討を行った。その際に、旧ソ連・東欧のみならず、東アジアでの体制移行過程の経験を参照した。そのために、研究会を通してメンバーの知見を共有すると同時に、研究協力者や外部講師を招いてその講義を聞いた。次に、先行研究の精読と整理を経て、フィールド・ワークおよびアンケート調査を通じた実証研究を行った。草の根の政治参加を「政治活動」と広く定義し、大きく分けて、人民代表大会など既に制度化された政策決定過程、メディアを通じた政策決定への影響力行使、農村など基層社会のガバナンス、いわゆる集団抗議行動など非制度的なチャネルの活用などの領域における実態を精査した。

## 4. 研究成果

メンバー全員が一次資料を精読し、繰り返し現地調査を遂行したことにより、草の根レベルの多くの領域における政治活動の実態が明らかになった。その結果を論文に書き上げ、最終的に研究成果報告書としてまとめた（現在、書籍として出版すべく出版社と交渉中）。中間的な成果は、各自が出版の機会をみつけて既に多くの論文を世に問うている（次項参照）。最終論文を執筆する過程においては、プロジェクト内で多くの研究会や研究合宿を重ね、相互にコメントを提示し討論したのみならず、アジア政経学会および日本国際政治学会の2009年度研究大会でそれぞれ特別分科会と部会を構成して発表、討論を行い、多くの建設的なコメントを広く集めることができた。

我々の研究の結果、確かに草の根の政治活動が活性化していることは認められるものの、ボトム・アップのダイナミズムが今のところ

は必ずしも制度改革につながる様相を呈していないことが明らかになった。その原因は党のグリップが依然として効いていることであり、今後の政治制度改革を左右する重要な鍵は、党の側が草の根の政治活動の活性化にどのように対応していくのかという問題である。

## 5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計104件）

①高原明生、グローバル化と「中国モデル」、NIHU現代中国早稲田大学拠点研究シリーズ、査読無、1巻、2010、193-199

②唐亮、三つの情報競争と情報自由化の流れ、東亜、査読無、513号、2010、4-5

③青山瑠妙、上海協力機構と中国、ワセダアジアレビュー（再考、東アジア共同体）、査読無、7、2010、8-9

④高原明生、中国の台頭とその近隣外交—日本外交への示唆、RIETI Discussion Paper Series、査読無、09-J-012、2009、1-19

⑤園田茂人、中国社会における流動性の高まりとその国内／国際的インパクト、アジア研究、査読有、第55巻2号、2009、10-22

⑥園田茂人、格差問題の影が忍び寄る都市中間層の憂鬱、中央公論、査読無、6月号、2009、46-53

⑦Shigeto Sonoda、Emergence of Homogeneous Social Class?: Commonalities and Differences of the New Middle Class in Globalizing East Asia *Journal of Contemporary Eastern Asia*、査読有、Vol.18, No.2、2009、1-14

⑧巖善平、農民工の就業と権利保障—2008年珠江デルタ9市農民工アンケート調査に基づく、大原社会問題研究所雑誌（法政大学）、査読有、614、2009、20-33

⑨巖善平、中国雇用情勢、雇用促進対策および今後の展望—新大卒者、農民工を中心に、東亜（霞山会）、査読無、510、2009、66-76

⑩唐亮、一党支配体制の歴史的使命、深町英夫編著『中国政治体制100年』、査読無、一、2009、63-76

⑪唐亮、公聴会制度から見る政治参加の実態、菱田雅晴編著『中国 基層からのガバナンス』、査読無、一、2009、157-182

⑫青山瑠妙、中国を説明する—中国のソフトパワーと文化交流、外交フォーラム、査読無、252、2009、48-53

⑬阿古智子、「主体」を模索する中国の農村研究者たち[解題]、現代中国研究、査読無、第25号、2009、141-146

⑭阿古智子、从艾滋病問題看中国的政治社会变动、社会学評論（中国・华中科技大学社会学系）、査読無、第1号、2009、63-81

- ⑮阿古智子、水利・土地利用からとらえる中部農村の社会関係資本、近きに在りて、査読無、第55号、2009、112-120
- ⑯加茂具樹、新疆暴動という六十年の憂鬱、東亜、査読無、506号、2009、48-56
- ⑰加茂具樹、二十周年は政治安定の二十年、東亜、査読無、505号、2009、48-56
- ⑱加茂具樹、胡錦濤政権の政治改革の行方、東亜、査読無、502号、2009、46-55
- ⑲田原史起、水利施設とコミュニティ—中国山東半島C村の農地灌漑システムをめぐる、アジア経済、査読有、50巻7号、2009、26-55
- ⑳田原史起、道作りと社会関係資本—中国中部内陸農村の公共建設、近きに在りて、査読無、55巻、2009、121-131
- ㉑田原史起、中国の村を歩く—皮膚感覚からの「三農問題」再考、国際問題、査読無、581巻、2009、21-31
- ㉒中岡まり、人代選挙制度と和諧社会の建設—北京市(区・県級)を例として、常盤国際紀要、査読無、13号、2009、207-214
- ㉓加茂具樹、胡錦濤政権と人民—「秩序ある政治参加」のゆくえ、Ratio、査読無、5、2009、98-113
- ㉔Nobuo Shimotomai, Pyeongyang in 1956, "Cold War International History Project Bulletin", 査読無、第16巻、2008、455-463
- ㉕園田茂人、社会学からアジア社会論へ、学術の動向、査読無、第13号第14巻、2008、72-73
- ㉖厳善平、「増大する流動人口と都市の「繁栄」：上海市を対象に」、中国—社会と文化(中国社会文化学会)、査読無、第23号、2008、pp. 84-95
- ㉗厳善平、「新しい農政下の農村、農業と農民—安徽省A県、江蘇省J市の農村調査ノート」、現代中国研究(中国現代史研究会)、査読無、第23号、2008、35-47
- ㉘唐亮、中国政治改革の課題と第2期胡錦濤政権の取り組み、東亜、査読無、491号、2008、24-35
- ㉙青山瑠妙、インターネット時代の中国—越境する情報と中国政治体制変容の可能性、高原明生、田村慶子、佐藤幸人現代アジア研究1『越境』、査読無、一、2008、351-383
- ㉚Rumi Aoyama, Ryosei Kokubun, Sino-Japan Relations: Dynamic of Interdependence and Frictions, Zhang Yunling Making New Partnership: A Rising China and its Neighbors, 査読無、一、2008、54-82
- ㉛阿古智子、「腐敗と格差の根源は何か—黒監獄、売血、戸籍制度」、『RATIO 5』講談社、査読無、5号、2008、20-47
- ㉜阿古智子、「後鄧小平時代中国農村の権利結構と関係ネットワーク—着眼于基層的政治和社会力学」、『中国郷村社会評論』山東人民出版社、査読無、3号、2008、118-131
- ㉝加茂具樹、政権が直面する「信心」問題、東亜、査読無、498号、2008、46-55
- ㉞加茂具樹、五輪は中国をどう変えるのか、東亜、査読無、495号、2008、42-52
- ㉟加茂具樹、民主推薦された人代と政協幹部、東亜、査読無、491号、2008、46-56
- ㊱田原史起、「中国農村の道づくり—『つながり』・『まとまり』・リーダーシップ」、竹中千春・高橋伸夫・山本信人編著、『現代アジア研究 第2巻 市民社会』慶応義塾大学出版社、査読無、一、2008、133-155
- ㊲田原史起、「中国農村政治の構図—村民自治・農民上訪・税費改革をどうみるか」、天兒慧・浅野亮編著、『世界政治叢書 第8巻 中国・台湾』ミネルヴァ書房、査読無、一、2008、105-131
- ㊳田原史起、「『つながり』から『まとまり』へ—中国農村部の取り組み」、高橋哲哉・山影進編、『人間の安全保障』東京大学出版会、査読無、一、2008、189-199
- ㊴田原史起、「中国の農地収用問題をめぐる政治的リスク—三つのシナリオ」、アジ研ワールドトレンド、査読無、157、2008、4-7
- ㊵下斗米伸夫、ロシア下院議員選挙とプーチン政治体制の変容、リバイアサン、査読無、通号42、2008、123-147
- ㊶園田茂人、現代中国の階層と不平等、原純輔他編『社会階層と不平等』放送大学教育振興会、査読有、一、2008、151-165
- ㊷厳善平、上海市における二重労働市場の実証研究、『アジア経済』、査読無、第48巻、2008、1-24
- ㊸小嶋華津子、開発ラッシュに沸き返る北京と揺らぐ公共空間、東亜、査読無、489、2008、6-7
- ㊹阿古智子、「中国農村における権力構造と関係ネットワーク—基層をめぐる政治・社会学に着目して—」、『現代中国の社会変容と国際関係』(西村成雄・許衛東編)、査読無、一、2008、49-65
- ㊺加茂具樹、「『冰封』中国の過熱する経済」、東亜、査読無、489号、2008、56-57
- ㊻下斗米伸夫、プーチン政権とエネルギー政治、日本貿易会月報、査読無、通号645、2007、34-38
- ㊼園田茂人、都市中間層の台頭と新たなアイデンティティの形成?、西川潤・平野健一郎編『東アジア共同体の構築 第3巻 国際移動と社会変容』、査読有、一、2007、287-301
- ㊽園田茂人、民主化動因としてのアジア中間層の実体、西川潤・蕭新煌編『東アジアの社会運動と民主化』、査読有、一、2007、224-243
- ㊾厳善平、「制度的差別」で取り残される「絶対的貧困」、『リベラルタイム』、査読無、11月号、2007、28-29

⑥Rumi Aoyama, Rumi Aoyama, Kazuko Mori & Kenichiro Hirano, A New East Asia: Toward a Regional Community (National University of Singapore)、査読無、一、2007、156-182

⑦青山瑠妙、中国のパブリック・ディプロマシー、川島真編、中国の外交：自己認識と課題(山川出版社)、査読無、一、2007、35-54

⑧青山瑠妙、中国民衆の対米イメージ、高木誠一郎編、米中関係—冷戦後の構造と展開(日本国際問題研究所)、査読無、一、2007、235-260

⑨加茂具樹、『『民主推薦』された新しい『中央の領導集団』』、東亜、査読無、486号、2007、46-55

⑩加茂具樹、『『科学的発展観』の新しい担い手』、東亜、査読無、485号、2007、46-54

⑪加茂具樹、『『社会主義民主政治の建設と『民主』』』、東亜、査読無、481号、2007、42-53

⑫田原史起、中国農村政治研究の現況と課題：農村政治行為者分析之探討、『郷村中国評論』、査読無、第2号、2007、275-290

[学会発表] (計 45 件)

① Fumiki Tahara, “Leader, Agent or Bystander?: Governance and Public Goods in Chinese and Russian Villages”, Second International Symposium of Comparative Research on Major Regional Powers in Eurasia, “Comparing the Politics of the Eurasian Regional Powers: China, Russia, India, and Turkey”, 2009年12月13日、法政大学

② Shigeto Sonoda, Different Perceptions of Social Inequality in China, India, and Russia: A Comparative Analysis of AsiaBarometer 2008, International Symposium “Comparing the Politics of the Euroasian Regional Powers: China, Russia, India, and Turkey”, 2009年12月12日、法政大学

③ 阿古智子、China’s “Floating” Population and Issues of Human Rights in a Globalizing Economy、東アジアと国連：グローバルイシューへの地域協力を求めて(日本国際連合学会・韓国国際連合学会)、2009年12月11日、早稲田大学

④ 青山瑠妙、分断化した権威主義体制における中国のメディア、日本国際政治学会、2009年11月9日、神戸国際会議場

⑤ 中岡まり、中国共産党と人民代表大会選挙一区・県級直接選挙における「非組織的推薦による候補者」の意味、日本国際政治学会、2009年11月8日、神戸国際会議場

⑥ 小嶋華津子、中国における住民自治と政治参加、日本国際政治学会、2009年11月8日、

神戸国際会議場

⑦ 園田茂人、アジアの新中間層、東方学会第59回全国会員総会シンポジウム「アジア・バロメーターの展開」、2009年11月6日、日本教育会館

⑧ 園田茂人、都市環境と流動人口増加の『厄介な関係』天津と調査(2004-09)の知見から、復旦大学歴史地理研究中心・総合地球環境研究所「中国における都市化の進展と環境問題」シンポジウム、2009年11月2日、復旦大学

⑨ 園田茂人、『階級政治』なき格差拡大という逆説、日中学術討論会「ポスト改革開放30年を考える」、2009年10月19日、早稲田大学

⑩ 巖善平、中国農村の基層組織：その構造と機能の転換、アジア政経学会全国大会・特別分科会、2009年10月11日、法政大学

⑪ 阿古智子、中国エイズ問題をめぐる官民の攻防—都市・農村の断裂を繋ぐ政治参加の可能性を探る、アジア政経学会全国大会・特別分科会、2009年10月11日、法政大学

⑫ 田原史起、政治参加とコミュニティーポスト税費時代の中国農民、アジア政経学会全国大会・特別分科会、2009年10月11日、法政大学

⑬ Shigeto Sonoda, Emergence of ‘Class Conscious’ Society in Urban China?: Chronological Analysis of Tianjin Survey, 1997-2008、2009年中国社会学年会、2009年7月21日、西安・陝西賓館

⑭ 園田茂人、現代中国における『格差』の位相、中国社会分科学会2009年度大会、2009年7月12日、東京大学

⑮ 加茂具樹、近現代中国の立憲主義をめぐる政治・社会・思想情勢、南山大学アジア・太平洋研究センター・三菱算団研究助成「近現代中国の立憲主義の受容と展開」プロジェクト、『近現代中国の立憲主義をめぐる政治・社会・思想主義』報告、2009年6月27日、南山大学名古屋キャンパス

⑯ Shigeto Sonoda, Emergence of Homogeneous Social Groups?: Convergence and Divergence among Middle Classes in Globalizing East Asia, International Conference on “International Trading and Financial Hubs in East and Southeast Asia: Rivalry and Complementarity”, 2009年5月28日、L’Ecole des Hautes Etudes en Sciences Sociales

⑰ 中岡まり、村民委員会・村党支部対農村経済発展的作用、中国西部地区貧困農村問題研究討論会、2008年12月23日、中国西部地区貧困農村問題研究討論会

⑱ 園田茂人、問題提起／流動化するアジア：統合研究への社会・文化的アプローチ、第2

回国際シンポジウム「人の移動とアジアの地域統合：高等教育/労働市場の現状と政策的リ  
スpons」、2008年12月13日、早稲田大学

⑱ 園田茂人、誰が和諧社会を望んでいるのか？天津市調査からの知見、愛知大学国際中国学研究センター2008年度国際シンポジウム「中国をめぐる開発と和諧社会」、2008年12月6日、愛知大学

⑳ 加茂具樹、「有秩序的政治参與和胡锦涛政権的政治改革」、日本論壇會議—政権輪替後台湾與日本の新東亞觀研究討論、2008年11月28日、政治大学（台湾）

㉑ 加茂具樹、「1970年代の人民代表大会改革と改革開放」、現代中国学会第58回全国学術大会政治分科会、2008年10月19日、東京大学

㉒ 園田茂人、「中国社会における流動性の高まりとその国内／国際的インパクト」、アジア政経学会・国際セッション、2008年10月11日、神戸学院大学

㉓ 加茂具樹、「未来的中国—想像中的中国與可能實現的中国」、共和国制度成長的政治的基礎学術討論会、2008年7月18日、復旦大学（上海）

㉔ 巖善平、「農家人口および労働力の利用状況に関する調査報告」、日本現代中国学会関西部会、2008年6月15日、関西大学

㉕ 阿古智子、「社会階層・農民工の動態的研究：温州市におけるアンケート調査より」、日本現代中国学会・関西部会大会、2008年6月15日、関西大学

㉖ Shigeto Sonoda, “Emergence of Urban Middle Classes in Contemporary China: Are They Going to Change Political System?”、Second Meeting on “Comparing Middle Classes in Ethnic Chinese Societies in Modern Asia-Pacific、2008年6月13日、台湾・中央研究院

㉗ 三宅康之、「分税制導入後の行財政改革」、2008年中国現代史研究会総会・研究集会、2008年3月22日、KKRびわこ

㉘ 三宅康之、「改革期中国のガバナンス改革」、法政大学比較経済研究所シンポジウムガバナンスの比較セクター分析、2008年3月13日、法政大学市ヶ谷キャンパス

㉙ Shigeto Sonoda, “Perception of Inequality in East Asia: Some Empirical Observations from AsiaBarometer”、International Joint Symposium on “Socio-political Transformation in Globalizing Asia: Integration or Conflict?”、2008年2月21日、早稲田大学

㉚ 小嶋華津子、「中国の市民社会」、筑波大学比較市民社会・国家・文化特別プロジェクト公開シンポジウム「世界の中の日本の市民、市民の社会」、2007年12月15日、筑波大学

㉛ Shigeto Sonoda, “Perception of Inequality with Southeast Asian Characteristics?: Some Empirical Observations on Educational Inequality”、International Worksh

op for AsiaBarometer 2007、2007年12月12日、中央大学

㉜ 阿古智子、「血液管理・HIV問題を通して考える中国の政治・社会変動」、外務省平成19年度日中知的交流事業『多元化社会における政治参与チャンネルに関する日中共同研究～アパシー状況下のガバナンス～』、2007年12月8日、法政大学

㉝ 加茂具樹、「中国共産党の政権担当能力：『ねらい』と『現実』のあいだ」、アジア政経学会、2007年12月8日、東京女子大学

㉞ 田原史起、「中国農村発展与社会関係資本」、華東師範大学研究生・本科生高水平学術講座、2007年11月23日、華東師範大学閔行キャンパス（上海）

㉟ Shigeto Sonoda, “Social Inequality and Injustice in Developing China: Some Empirical Observations”、International Symposium “Inequality in the 21st Century: What Are the Main Challenges of Our Time?”、2007年11月4日、東北大学

㊱ 三宅康之、「中国の財政制度改革と中央地方関係」、2007年度比較政治学会、2007年6月24日、同志社大学今出川校地

㊲ 巖善平、「大都市における二重労働市場の実証分析」、アジア政経学会西日本大会、2007年6月2日、福岡大学

㊳ 園田茂人、「東アジアの中間層は民主化の担い手となりうるか?」、早稲田大学アジア研究機構『21世紀の東アジア：境界を越えて』、2007年5月25日、早稲田大学国際会議場

〔図書〕（計24件）

① 西村成雄編著（高原明生）、放送大学教育振興会、『現代東アジアの政治と社会』、2010、74-97、233-245

② 菱田雅晴編著（阿古智子）、法政大学出版局、『中国基層からのガバナンス』、「農村社会の凝集力—湖北省S県の「公共生活」をめぐる事例研究」2010、99-121

③ 巖善平、岩波書店、『中国的問題群7 農村から都市へ—1億3000万人の農民大移動』、2009、174

④ 阿古智子、新潮社、『貧者を喰らう国』、2009、204

⑤ 高原明生ほか編、慶應義塾大学出版会、『現代アジア研究1 越境』、2008、1-17

⑥ 中国総覧編集委員会（編）、（高原明生）ぎょうせい、『中国総覧 2007～2008年版』、2008、pp.140-148

⑦ 園田茂人、中央公論新社、『不平等国家中国』、2008、200

⑧ 園田茂人（編）、岩波書店、『中国社会はどこへ行くか』、2008、217

⑨ 園田茂人、ミネルヴァ書房、天児慧・浅野亮編『世界政治叢書 中国・台湾』、2008、85-103

⑩ 園田茂人、ぎょうせい、中国総覧編集委員会編『中国総覧2007～2008年度版』、2008、400-410

- ⑪ 巖善平、慶應義塾大学出版会、武田康裕・丸川知雄・巖善平編著『現代アジア研究第3巻 政策』（第10章 中国における『三農政策』とその転換 担当）、2008、231-252
- ⑫ 天児慧・浅野亮編、(唐亮) ミネルヴァ書房、『中国・台湾』、2008、29-56
- ⑬ 高原明生等編、(唐亮) 慶應義塾大学出版会、『越境』、2008、387-413
- ⑭ 関志雄等編著、(唐亮) 勁草書房、『中国・台湾』、2008、191-214
- ⑮ アジア政経学会監修、竹中千春・高橋伸夫・山本信人編著、(小嶋華津子) 慶應義塾大学出版会、『現代アジア研究2 市民社会』（「第7章 市場経済化と中国都市部の『市民社会』」を分担）、2008、21
- ⑯ 田原史起、山川出版社、『二十世紀中国の革命と農村』、2008、90
- ⑰ 青山瑠妙、慶應義塾大学出版会、『現代中国の外交』、2007、534

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

高原 明生(TAKAHARA AKIO)  
東京大学・大学院法学政治学研究科・教授  
研究者番号：80240993

### (2) 研究分担者

下斗米 伸夫(SHIMOTOMAI NOBUO)  
法政大学・法学部・教授  
研究者番号：80112986

園田 茂人(SONODA SHIGETO)  
東京大学・大学院情報学環・教授  
研究者番号：10206683

巖 善平(GEN ZENPEI)  
桃山学院大学・経済学部・教授  
研究者番号：00248056

唐 亮(TOU RYOU)  
早稲田大学・政治経済学術院・教授  
研究者番号：10257743

青山 瑠妙(AOYAMA RUMI)  
早稲田大学・教育総合科学学術院・教授  
研究者番号：20329022

中岡 まり(NAKAOKA MARI)  
常磐大学・国際学部・講師  
研究者番号：80364488

三宅 康之(MIYAKE YASUYUKI)  
愛知県立大学・外国語学部・准教授  
研究者番号：50363908

小嶋 華津子(KOJIMA KAZUKO)  
筑波大学・人文社会科学研究所・講師  
研究者番号：00344854

阿古 智子(AKO TOMOKO)  
早稲田大学・国際教養学術院・准教授  
研究者番号：80388842

加茂 具樹(KAMO TOMOKI)  
慶應義塾大学・総合政策学部・准教授  
研究者番号：30365499

田原 史起(TAHARA FUMIKI)  
東京大学・総合文化研究科・准教授  
研究者番号：20308563

(3) 連携研究者 なし

### (4) 研究協力者

城山 英巳(SHIROYAMA HIDEMI)  
時事通信社

張 志紅(CHOU SHIKOU)  
南海大学・周恩来政府管理学院・副教授  
早稲田大学・客員研究員

杜 創国(TO SOUKOKU)  
山西大学・政治与公共管理学院・副院長  
東京大学・大学院法学政治学研究科・客員研究員

白 智立(BAI ZHILI)  
北京大学・政府管理学院・副院長

松田康博(MATSUDA YASUHIRO)  
東京大学・東洋文化研究所・准教授  
研究者番号：50511482

武田 康裕(TAKEDA YASUHIRO)  
防衛大学・国際関係学科・教授  
研究者番号：10545817

木村 幹(KIMURA KAN)  
神戸大学・大学院国際協力研究科・教授  
研究者番号：50253290

川原 彰(KAWAHARA AKIRA)  
中央大学・法学部・教授  
研究者番号：30224819